

CF2
3
07

三
共
六
本

新編民法	
第一	第一
第二	第二
第三	第三
第四	第四

佛蘭西
民法
一
書

明治九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯
辻上草筆受

仙蘭西

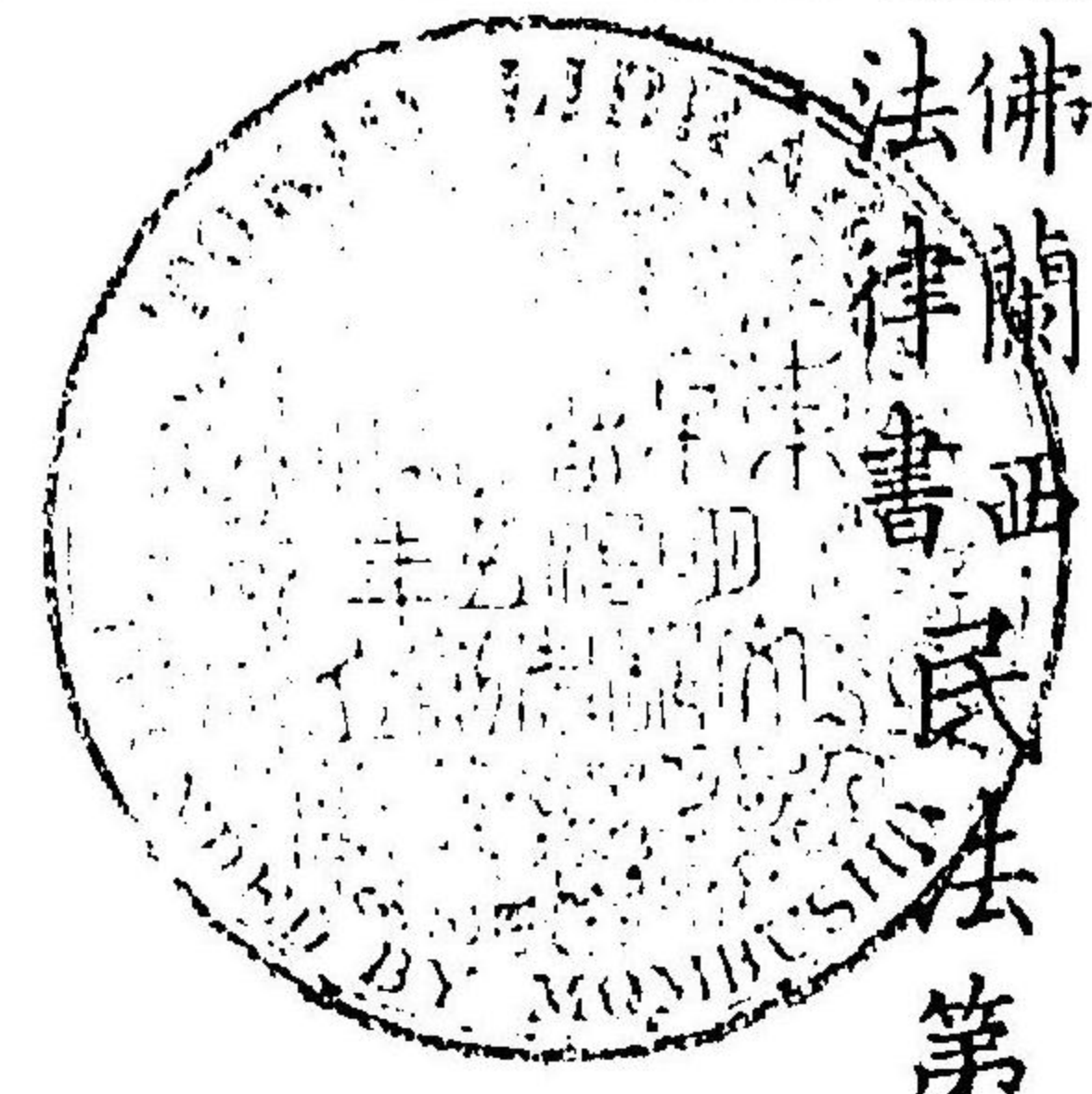
法律書

民法

文部省

CF
3
07

佛蘭西法律書 民法第十四



明治九年文部省交付

文部少博士箕作麟祥口譯

○第十一條 附託ノ事及ヒ雙方相争ノ物

ヲ人ニ附託スル事千八百四年第三月
十四日決定同月廿四日布告

○第一章 總テ附託ノ事及ヒ附託ノ種
類

第一千九百十五條 附託トハ總テ一方ノ者他ノ

佛蘭西民法 第三篇第七章第一款 一

CF2
3
07

法律書

東京府立圖書館



佛蘭西法律書第十四

文部少博士箕作麟祥口譯

以上草筆受

明治九年未刊行

仙蘭西

法律書

民法

文部省

明治九年文部省交付

文部少博士箕作麟祥口譯

第十一條

附託ノ事及ヒ雙方相争ノ物

ヲ人ニ附託スル事千八百四年第三月

十四日決定同月廿四日布告

○第一章 總テ附託ノ事及ヒ附託ノ種

類

第千九百十五條 附託トハ總テ一方ノ者他ノ

佛蘭西民法

第三編第一章第一節第一款

大正

一方ノ者ニ物件ヲ預ケ他ノ一方ノ者之ヲ管
 守レ後ニ之ヲ其儘ニテ還ス可キ契約ヲ云フ
 第千九百十六條 附託ニ二種アリ一ハ通常ノ
 附託又一ハ雙方相争フ物ヲ人ニ附託スル事
 ナリ

○第二章 通常ノ附託

○第一款 附託ノ契約ノ本義

第千九百十七條 通常ノ附託ハ別段償ヲ用ヒ
 サル契約ナリトス

第千九百十八條 附託ハ動産ノミニ限ル可シ

第千九百十九條 附託ハ物件ヲ現ニ引渡ス事

又ハ引渡シタリト看做ス可キ事アルニ非レ
 ハ之ヲ成就シタリトセス

附託ヲ受クル者嘗テ物件ヲ附託ニ非サル名
 義ヲ以テ其所有者ヨリ既ニ己ノ方ニ受取り
 其所有者其儘之ヲ預ケ置カントスル時ハ其
 物件ヲ引渡シタリト看做ス可キ事アリトス
 第千九百二十條 附託ハ隨意ノモノアリ又己
 ムヲ得サルモノナリ

○第二款 隨意ノ附託

第一千九百二十一條 隨意ノ附託ハ附託ヲ為ス者ト附託ヲ受クル者ト雙方ノ承諾ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第一千九百二十二條 隨意ノ附託ハ物件ノ所有者之ヲ為レ又ハ其者ノ明許或ハ默許ヲ以テ他人之ヲ為ル時ノ外法ニ適レタルモノナリトセス

第一千九百二十三條 隨意ノ附託ハ書面ヲ以テ之ヲ證ス可シ〇百五十フラン以上ノ價ニ付テハ證人ヲ以テ附託ノ證ヲ立ルヲ得ス

第一千九百二十四條 百五十フラン以上ノ物件ノ附託ニ付キ其證書ノアラサル時ハ附託ヲ受ケル者ナリトノ言掛ヲ受ケタル者其附託ヲ受ケタルヤ否ノ事又ハ其附託ヲ受ケタル物件ノ種類又ハ其物件ヲ既ニ還レタル事等ノ諸事ニ付キ摺ヲ以テ其證ヲ立ルヲ得可シ

第一千九百二十五條 隨意ノ附託ハ契約ヲ為レ得可キ者ノ間ニノミ之ヲ為スヲ得可シ然レ契約ヲ為レ得可キ者契約ヲ為レ得可カ

ラサル者ノ為シタル附託ヲ承託シタル時ハ其附託ヲ受ケル者通常ノ義務ヲ負フ可クシテ其附託ヲ為シタル者ノ後見人又ハ其者ノ財産支配人ヨリ訴訟ヲ受クルコトアル可シ

第一千九百二十六條 契約ヲ為シ得可キ者ヨリ契約ヲ為シ得可カラサル者ニ附託ヲ為シタル時ハ其附託シタル物件其附託ヲ受ケタル者ノ手裏ニ現存スル時間ニ非レハ其物件ヲ取戻ス可キノ訴訟ヲ為スコトヲ得ヌ又其附託シタル物件其附託ヲ受ケル者ノ利益トナリ

シ高ニ至ル迄ノ外其價高ヲ取戻ス可キノ訴訟ヲ為スコトヲ得ヌ

○第三款 附託ヲ受クル者ノ義務

第一千九百二十七條 附託ヲ受ケタル者ハ其附託ヲ受ケタル物件ヲ管守スルニ付キ自己ノ所有スル物件ヲ管守スルニ等シキ注意ヲ為ス可シ

第一千九百二十八條

第一 附託ヲ受クル者自己ノ方ヨリ其附託ヲ受ク可キノ述ハタル時

第二 附託ヲ受クル者其物件ヲ管守スルニ付キ謝金ヲ得可キノ契約ヲ為レタル時

第三 附託ヲ受クル者ノ利益ノ為メ其附託ヲ為レタル時

第四 附託ヲ受クル者如何ナル過失アリト雖モ皆之ヲ己ニ擔當ス可キヲ特ニ契約シタル時

此等ノ場合ニ於テハ前條ノ規則ヲ別段嚴密ニ通シ用フ可シ

第千九百二十九條 物件ノ附託ヲ受ケタル者

ハ如何ナル場合タルヲ問ハス抗拒ス可カラ

サルカアル意外ノ事ニ因リ其物件ヲ毀損滅

盡セシメタル責ニ任スルニ及ハス但シ其附

托ヲ受ケタル物件ヲ還ス可キノ求メテ受ケ

猶之ヲ還サハル時ハ格別ナリトス

第千九百三十條 附託ヲ受ケタル者ハ附託ヲ

為シタル者ノ明許又ハ黙許ナクシテ其附託

ヲ受ケタル物件ヲ使用ス可カラス

第千九百三十一條 附託ヲ受ケレ物件鎖閉シ

タル箱匱中ニ入りタル時又ハ封印ヲ為シタル包皮中ニ入りタル時ハ其附託ヲ受ケタル者其物件ノ何物タルヲ知リ得ント為ス可カラズ

第千九百三十二條 附託ヲ受ケタル者ハ其附託ヲ受ケシ物件ヲ必ス返還ス可シ故ニ貨幣ノ附託ヲ受ケタル者ハ其貨幣ノ價ニ低昂アルヲ問ハス其附託ヲ受ケタルト同一ノ貨幣ヲ還ス可シ

第千九百三十三條 附託ヲ受ケタル者ハ其附

託ヲ受ケシ物件ヲ其還ス可キ時ノ景狀ノ儘之ヲ還スヲ得可シ○其者ノ過失ニ非スシテ其物件ノ卑惡ニ至リシ時ハ附託ヲ為シタル者其損失ヲ己ニ擔當ス可シ

第千九百三十四條 附託ヲ受ケタル者抗拒ス可カラサルカニ因リ其附託ヲ受ケシ物件ヲ失ヒ其物件ニ代ヘテ金高又ハ其他ノ物件ヲ人ヨリ受取リタル時ハ其附託ヲ為シタル者ニ其金高又ハ其他ノ物件ヲ還ス可シ

第千九百三十五條 附託ヲ受ケタル者ノ遺物

相續人其附託ノ事ヲ知ラス正實ノ意ヲ以テ
 其附託ヲ受ケン物件ヲ賣拂フタル時ハ其得
 タル代金ヲ還ス可シ又其相續人未タ其代金
 ヲ受取ラサル時ハ買主ニ對シ訴訟ヲ為ス可
 キノ權ヲ附托ヲ為シタル者ニ讓ル可シ

第一千九百三十六條 附託ヲ受ケン物件ヨリ利
 益ヲ生シ附託ヲ受ケタル者其利益ヲ己ニ得
 タル時ハ之ヲ附託ヲ為シタル者ニ還ス可シ
 ○附託ヲ受ケタル者ハ附託ヲ受ケン金高ノ
 息銀ヲ拂フニ及ハス但シ其金高ヲ還ス可キ

ノ求メテ受ケ猶之ヲ還サ、ル時ハ其求メテ
 受ケン日ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ

第一千九百三十七條 附託ヲ受ケタル者ハ其物
 件ヲ附託シタル者又ハ其真ノ所有者又ハ其
 物件ヲ受取ル為メ附託者ノ別段定メ置キタ
 ル者ニ之ヲ還ス可シ

第一千九百三十八條 附託ヲ受ケタル者ハ附託
 ヲ為シタル者其物件ノ所有者タルノ證ヲ必
 ス得ント要ムルヲ得ス若シ必ス其證ヲ得
 不附託ヲ承引スル前
 二之ヲ要ム可シ

然ル其物件贓物ニシテ其附託ヲ受ケタル者
 別ニ其真ノ所有者ヲ見出シタル時ハ其附託
 ヲ受ケタル者真ノ所有者ニ其物件ノ附託ヲ
 受ケタル旨ヲ告知シ且相當ノ定期内ニ其物
 件ヲ引取ル可キヲ求ム可シ○其告知ヲ得
 タル者其定期内ニ其物件ノ引渡ヲ求ムル
 ナキ時ハ附託ヲ受ケタル者嘗テ其附託ヲ為
 シタル者ニ其物件ヲ還シテ義務ノ釋放ヲ受
 ク可シ

第千九百三十九條 附託ヲ為シタル者ノ死去

又ハ准死ノ時ハ其附託セシ物件ヲ其遺物相
 續人ニ還ス可シ
 其相續人二人以上ナル時ハ其得可キ部分ヲ
 其各人ニ還ス可シ
 又附託セシ物件ヲ分ツ可カラサル時ハ其相
 續人等互ニ協議シタル上其物件ヲ受取ル可
 キ者ヲ定ム可シ

第千九百四十條 嘗テ物件ヲ附託セシ者ノ身
 上ノ變シタル時譬ハ附託ヲ為セシ時未タ
 婚姻セサル婦其後ニ至リ婚姻ヲ結ヒタルニ

因リ其夫ノ權ニ從フ可キ者トナリタル時又ハ附託ヲ為シタル者後ニ治産ノ禁ヲ受ケタル時及ヒ其他此類ノ如キ場合ニ於テハ其附託ヲ受ケル者此等ノ者ノ財産ヲ支配シ且其權利ヲ扱フ者又ハ後見ニ其附託セシ物件ヲ還ス可シ

第一千九百四十一條 又後見人又ハ夫及ヒ其他人ニ代テ財産ヲ支配スル者其後見人又ハ夫又ハ支配人タルノ名義ヲ以テ人ニ物件ヲ附託シタルニ於テハ此等ノ者其支配ヲ為ス可

キ權ノ終リレ時其附託ヲ受ケタル者其物件ヲ其所有者以前ノ幼者婚姻セレ婦治産ニ還ス可シ

第一千九百四十二條 附託ノ契約書ニ其附託セシ物件ヲ還ス可キ地ヲ定メタル時ハ附託ヲ受ケタル者之ヲ還サントスル時其地ニ移送ス可シ但シ其移送ヲ為スニ付キ賃錢ヲ出シタル時ハ附託ヲ為シタル者之ヲ償フ可シ

第一千九百四十三條 又其契約ニ其物件ヲ還ス可キ地ヲ定メサル時ハ嘗テ附託ヲ為シタル

地ニテ之ヲ還ス可シ

第一千九百四十四條 附託ノ契約ニ其附託セシ
物件ヲ還スニ付キ定メタル猶預ノ期限ナル
時ト雖モ其附託ヲ為シタル者ヨリ其物件ノ
取戻サント求ムル時ハ其附託ヲ受ケタル者
直チニ之ヲ還ス可シ但シ附託ヲ為シタル者
ノ債主其附託ヲ受ケタル者ニ其還方ノ差留
ル書面ヲ送リタル時ハ格別ナリトス

第一千九百四十五條 附託ヲ受ケタル者ニ不正
ノ所為アリテ其物件ヲ還サ、ル時ハ其者自

己ノ財産ヲ拋棄シテ禁錮ヲ免ル、ノ權ナシ
第一千九百四十六條 附託ヲ受ケタル者自カラ
其附託ヲ受ケシ物件ノ所有者タルトテ見出
シテ其證ヲ立ル時ハ其附託ノ義務消散ス可
シ

○第四款 附託ヲ為ス者ノ義務

第一千九百四十七條 附託ヲ為シタル者ハ其附
託ヲ受ケタル者其物件ヲ保全スルニ付キ出
シタル費用ヲ償ヒ且其附託ニ因リ附託ヲ受

ケタル者ノ為メ生シタル損失ヲ償フ可シ

第一千九百四十八條 附託ヲ受ケタル者其附託

ニ付キ附託ヲ為シタル者ヨリ得可キ償額ノ

全部ヲ受取ルニ至ル迄ハ其附託ヲ受ケル物

件ヲ已メ方ニ留メ置クコトヲ得可シ

○第五款 已ムヲ得サル附託

第一千九百四十九條 已ムヲ得サル附託トハ火

災崩潰掠奪破船及ヒ其他預知ス可カラサル

意外ヲ事ニ因リ已ムヲ得スレテ人ニ物ヲ附

託スルコトヲ云フ

第一千九百五十條 已ムヲ得サル附託ニ付テハ

縦令百五十「フラン」以上ノ價ニ管シタル時

ト雖モ證人ヲ以テ證ヲ立ルコトヲ得可シ

第一千九百五十一條 其他已ムヲ得サル附託ニ

付テハ前數款ノ規則ニ循フ可シ

第一千九百五十二條 旅舎ノ主人ハ其家ニ宿ム

ル旅客ノ携ヘ来リシ物件ニ付キ其附託ヲ受

ケタル者ナリトシテ其物件ヲ管守ス可キ責

ニ任ス可シ但シ此類ノ附託ハ已ムヲ得サル

ノ附託ナリト看做ス可シ

第一千九百五十三條 旅舎ノ主人ハ其家ニ於テ
 使用スル者又ハ僕婢又ハ其他其家ニ出入ス
 ル者旅客ノ物件ヲ竊取シ又ハ其物件ニ損害
 ヲ加ヘタル時自カラ其責ニ任ス可シ
 第一千九百五十四條 旅舎ノ主人兵器ヲ携ヘタ
 ル賊ノ為メ強迫ヲ受ケ又ハ其他抗拒ス可カ
 ラサルカノ為メ旅客ノ物件ヲ奪ハレシ時ハ
 其責ニ任スルコトナカル可シ

○第三章 雙方相争ノ物ヲ人ニ附託ス
 ル事

○第一款 雙方相争ノ物ヲ人ニ附託
 スル事ノ種類

第一千九百五十五條 雙方相争ノ物ヲ人ニ附託
 スル事ハ契約ヲ以テ為スモノアリ又ハ裁判
 所ノ言渡ヲ以テ為スモノナリ

○第二款 雙方相争ノ物ヲ互ニ契約
 シテ人ニ附託スル事

第一千九百五十六條 雙方相争ノ物ヲ互ニ契約
 シテ人ニ附託スル事トハ一人原書ニ一人ト
 リ又ハ數人互ニ相争ノ物ヲ他人ニ附託シ其

附託ヲ受ケタル者其争ノ裁判アリシ時其物ヲ得可キノ言渡ヲ得タル者ニ之ヲ還ス可キノ契約ナリ

第一千九百五十七條 此類ノ附託ニ付テハ其附託ヲ受クル者其償ヲ受クルヲ得可シ

第一千九百五十八條 此附託ニ付キ其附託ヲ受クル者償ヲ得サル時ハ後條ニ記スル所ノ諸件ヲ除クノ外總テ通常ノ附託ノ規則ニ循ル可シ

第一千九百五十九條 此類ノ附託ハ動産ノニ

限ルヲナク不動産ニ付テモ亦之ヲ為スヲ得可シ

第一千九百六十條 此類ノ附託ヲ受ケタル者ハ其争ニ管シタル各人ノ承諾ヲ得タル時又ハ裁判所ヨリ至當ナリト言渡シタル原由アル時ノ外其争ノ裁判アル前ニ其義務ヲ釋放ヲ得可カラス

附託ヲ受ケル物件ヲ還ス可カラサルヲ云フ

○第三款 雙方相争ノ物ヲ裁判所ノ言渡ヲ以テ人ニ附託スル事

第一千九百六十一條 裁判所ヨリ左ノ物件ヲ人

ニ附託ス可キヲ言渡スヲ得可シ

第一 負債者其義務ヲ行ハサルニ因リ
債主ノ差押ヘタル動産

第二 二人以上ノ者互ニ所有ノ權又ハ
占有ノ權ヲ相争フ不動産又ハ動産、

第三 負債者其義務ノ釋放ヲ得ニカ為
メ債主ニ渡サント提供スル物件

第一千九百六十二條 負債者其義務ヲ行ハサル
ニ因リ裁判所ノ言渡ヲ以テ其財産ヲ差押ヘ
其物件ヲ他人ニ附託シタル時ハ其物件ヲ差

押ヘタル債主ト其附託ヲ受クル者トノ間ニ
互ニ義務ヲ生ス可シ

其附託ヲ受クル者ハ其附託ヲ受ケタル物件
ヲ保全スルニ付キ懇切ニ注意ス可シ

其附託ヲ受クル者ハ債主其物件ヲ賣拂ハン
トスル時其受取書ヲ得テ之ヲ引渡シ又債主

負債者ノ財産差押ヲ免ルニタル時ハ負債者
ニ之ヲ引渡ス可シ

又其債主ノ義務ハ其附託ヲ受クル者ニ法律
上ニ定メタル謝金ヲ與フ可キヲナリトス

第一千九百六十三條 此類ノ附託ハ訴訟ニ管シ
 タル數人ノ互ニ協議シテ定メタル者又ハ裁
 判役ノ特ニ定メタル者ニ之ヲ為ス可シ
 此二箇中何トノ場合ニ於テモ其附託ヲ受ケ
 タル者ハ雙方相争ノ物ノ契約上ノ附託ヲ受
 ケタル者ニ等シキ義務ヲ負フ可シ

○第十二卷 偶生ノ事ニ管スル契約(千八

百四年第三月十日決定同月廿日布告

第一千九百六十四條 偶生ノ事ニ管スル契約ト

ハ其契約ニ管シタル各人又ハ其中ノ一人又
 ハ數人ノ利益或ハ損失ヲ未定ノ事ニ管セシ
 ムル互相ノ契約ヲ云フ 第一千百四
 條見合

此類ノ契約ハ

海上請合及ヒ火災請合ノ契約 商法第三
 百三十二

條以下ニ
 詳ナリ

船舶又ハ積荷ヲ引當トシテ金高ヲ貸ス

契約以下ニ詳カナリ 第三百十一條

玩耍及ヒ賭博

畢生間ノ年金第九條見合ノ契約

前ノ二項ニ記スル所ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

○第一章 玩耍及ヒ賭博

第一千九百六十五條 玩耍又ハ賭博ノ債ヲ拂フ

ニ付テハ法律上ニテ訴訟ヲ為スヲ許サス

第一千九百六十六條 兵器ノ取扱ヲ練熟セシム

ル為メノ玩耍、競馬、鬪走、競車、打毬及ヒ其他身

體ヲ輕捷壯健ナラシム可キ玩耍ハ前條ニ記

スル規則外ノモノトス

然レ裁判所ニテ其玩耍ニ賭ケタル金高過多

ナリト思量スル時ハ其拂方ヲ要ムルノ訴訟

ヲ允許セサルヲ得可シ

第一千九百六十七條 何レノ場合ニ於テモ玩耍

又ハ賭博ニ負ケタル者ハ自己ノ意ヲ以テ拂

フタル金高ヲ取戻スヲ得ス但シ勝ヲ得タ

ル者ニ詐偽詭計アル時ハ格別ナリトス

○第二章 畢生間ノ年金ノ契約

○第一款 畢生間ノ年金ノ契約ヲ法ニ適シタルモノト為スニ必要ナル條件

第千九百六十八條 畢生間ノ年金ハ金高又ハ價ヲ算計スルヲ得可キ動産又ハ不動産ヲ得テ其償ノ為メ之ヲ與フルヲ得可シ但シ此種類ノ年金ヲ名ケテ充償ノ年金ト云フ
第千九百六十九條 又生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ニ因リ償ニ非スシテ畢生間ノ年金ヲ與フルヲ得可シ但シ此種類ノ年金ヲ名ケ

テ不充償ノ年金ト云ノ○此類ノ年金ニ付ノハ法律上ニ定メタル法式ヲ以テ其證書ヲ記ス可シ第九百三十一條以下見合セ

第千九百七十條 前條ノ場合ニ於テ其年金ノ高贈遺ト為スヲ得可キ財産ノ定分ニ過キタル時ハ之ヲ減ス可シ第九百十七條見合セ又贈遺ヲ受クルヲ能ハサル者ノ為メ其年金ヲ贈與シタル時ハ其贈遺ノ効ナカ可シ

第千九百七十一條 畢生間ノ年金ハ元資ヲ出シタル者ノ畢生間之ヲ拂ヒ又ハ元資ヲ出シ

タル以外ノ者ノ畢生間之ヲ拂フコトヲ得可シ
第千九百七十二條 畢生間ノ年金ハ一人又ハ
數人ノ畢生間之ヲ拂フコトヲ得可シ

第千九百七十三條 甲ヨリ元資ヲ出シタルト
雖モ乙ニ年金ヲ拂フコトヲ得可シ

此場合ニ於テハ其年金ニ贈遺ノ景狀アリト
雖モ其證書ニ付キ贈遺ノ證書ノ為メ必要ナ
ル法式ヲ用フルニ及ハス但シ其年金ノ高ヲ
減スル場合又ハ年金ノ契約ノ効ナキ場合ハ
第千九百七十條ニ記スル所ニ等シトス

第千九百七十四條 甲ノ畢生間乙ヨリ丙ニ年
金ヲ與フ可キノ契約ヲ結ビシ時甲既ニ死去
シタルニ於テハ其契約ノ効ナカル可シ

第千九百七十五條 又乙ト丙ト年金ノ契約ヲ
結ビタル時甲既ニ病ニ罹リ其契約ノ時ヨリ
二十日內ニ死シタル時ハ亦前條ニ等シトス
第千九百七十六條 畢生間ノ年金ノ高ハ契約
ヲ為ス雙方ノ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得可シ

○第二款 畢生間ノ年金ノ契約ヲ為
ス雙方ノ間ニ其契約ヨリ生スル

條件

第一千九百七十七條 元資ヲ出シテ畢生間ノ年金ヲ得可キ者ハ之ヲ拂フ可キ者ヨリ其契約ノ如ク執行フニ付テノ保證人ヲ立テサル時其契約ヲ廢棄セント訴フルヲ得可シ

第一千九百七十八條 定期毎ニ拂フ可キ年金ノ高ヲ拂フヲ怠リシニテハ其年金ヲ得可キ者ヨリ元金ノ償戻ヲ求メ又ハ動産或ハ不動産ノ取戻ヲ求ムルヲ得ス唯其年金ヲ拂フ可キ者ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ賣拂ヒ其

賣拂ニ因リ得タル代金中ヨリ年金ノ高ニ至ル迄ノ金高ヲ已ニ得可キノ裁判言渡ヲ得又ハ年金ヲ拂フ可キ者ヲシテ其旨ヲ承諾セシムルヲ得可シ

第一千九百七十九條 年金ヲ拂フ可キ者ハ其元資ヲ還サント申述ハ且其既ニ拂フタル年金ヲ取戻スヲナキ旨ヲ申述フルト雖モ年金ヲ拂フ可キノ義務ヲ免カル、トヲ得ス但シ其者ハ年金ヲ得可キ一人又ハ數人ノ命數ノ如何ニ長キヲ問ハス且之ヲ拂フヲ自己ノ為メ

如何ニ困難ナルヲ問ハス其一人又ハ數人ノ
畢生間必ス其年金ヲ拂フ可シ

第千九百八十條 畢生間ノ年金ハ之ヲ得可キ
者ノ生存シタル日數ノ割合ヲ以テ之ヲ拂フ
可シ

然ルニ其年金ヲ前拂ニ為ス可キノ契約アル時
ハ定期ニ至リ拂フ可キ高ク其拂方ヲ為ス可
キ日ヨリ以來一方ノ所得ト為ス可シ

第千九百八十一條 不充償ノ年金ヲ除クノ外
總テ年金ヲ得可キ者其債主ノ為メ其年金ノ

拂方差留ヲ受クルトナカル可キ旨ヲ預メ定
メ置クヲ得ス

第千九百八十二條 畢生間ノ年金ハ之ヲ得可
キ者ノ准死ニ因リ消盡スルトナク其生存ス
ル時間ハ之ヲ拂フ可シ

第千九百八十三條 畢生間ノ年金ヲ得シトス
ル甲者ハ之ヲ拂フ可キ乙者ニ對シ自己ノ生
存スル證ヲ立テサルヲ得ス又丙者ノ畢生間
乙者ヨリ甲者ニ年金ヲ拂フ可キ契約アル時
ハ甲者丙者ノ生存スル證ヲ立スシテ其年金

ヲ得可カラズ

○第十三卷 名代ノ證書千八百四年第三

月十日決定同月廿日布告

第一章 名代ノ證書ノ本義及ヒ法式

第一千九百八十四條 名代ノ證書トハ一人ヨリ
他人ニ己ノ名義ヲ以テ事ヲ為ス可キノ權ヲ
授クル證書ヲ云フ

其契約ハ名代人ノ承諾アル上ニ非サレハ之
ヲ為ス可カラズ

第一千九百八十五條 名代人ヲ任スルハ公正
ノ證書又ハ私ノ證書ヲ以テ之ヲ為スヲ得

又ハ書狀ヲ以テ之ヲ為スヲ得或ハ口上ヲ以テ亦之ヲ為スヲ得可シ然レ口上ニテ名代人ヲ任シタル時證人ヲ以テ證ヲ立ルニ付テハ此篇第三卷ノ契約ノ規則ニ循フ可シ名代ノ任ヲ受ケシ者之ヲ承諾シタルヲ別段述ヘスト雖レ自カラ其名代ノ事務ヲ執行フタル時ハ黙許ヲ以テ承諾シタルト看做ス可シ

第一千九百八十六條 名代ヲ任スルニ付テハ謝金ヲ出スニ及ハス但レ之ニ反レタル契約ア

ル時ハ格別ナリトス

第一千九百八十七條 名代ヲ任スルヲハ本人ノ特ニ定メタル一箇ノ事務又ハ數箇ノ事務ニ管シタルヲアリ又ハ總テ本人ノ諸般ノ事務ニ管シタルヲアリ

第一千九百八十八條 泛博ノ意味ニ記シタル名代ノ證書ハ本人ノ財産ヲ支配シ得可キノミノ證トス可シ

本人ノ財産ヲ賣拂ヒ又ハハイポテークト為シ及ヒ其他財産所有ノ權ニ管シタル事務ヲ本

人ニ代リ為ス可キ時ハ持ニ其旨ヲ記載ス可シ

第一千九百八十九條 名代人ハ其名代ノ證書ニ

記載シタルヨリ以外ノ事ヲ為ス可カラズ故

ニ本人ニ代テ和解ヲ為スノ權此篇第十五ノ卷ニ詳ナリ

ミヲ得タルニ於テハ裁斷人ヲ撰ミ其裁斷ニ

任カスノ權訴訟法第一千ヲ包含スルヲナシ

第一千九百九十條 婦及ヒ後見ヲ免レタル幼者

ヲ名代人ニ撰ミ用フルヲ得可シ但シ本人

其名代人タル幼者ニ對シテハ幼者ノ義務ニ

管シタル一般ノ規則第四百八十一ニ循ヒ訴

訟ヲ為ス可ク又夫ノ承諾ナクシテ名代人ト

ナリタル婦ニ對シテハ此篇第五卷婚姻ノ契約

第四百二十二條見合セニ記シタル規則ニ循ヒ其訴訟ヲ

為ス可シ

○第二章 名代人ノ義務

第一千九百九十一條 名代人ハ其任ヲ受テタル

時間名代ノ事務ヲ執行フ可ク若シ之ヲ行ハ

サルニ因リ本人ノ為メ損失ヲ生シタル時ハ

之ヲ償フ可シ

本人死去ノ時名代人既ニ為シ始メタル事アリテ名代人之ヲ停止スル時ハ後ニ其事ヲ為スノ阻害トナル可キ恐アルニ於テハ名代人其事ヲ成就ス可シ

第千九百九十二條 名代人ハ己ノ為ス所ノ詐偽ノ責ニ任ス可キノミニ非ス己ノ過失ノ責ニモ亦任ス可シ

謝金ヲ受ケサル名代人己ノ過失ニ任スルノ責ハ謝金ヲ受クル名代人ヨリ更ニ輕シトス
第千九百九十三條 名代人ハ總テ己ノ行フタ

ル所ヲ本人ニ算計シ且其本人ノ為メ受取リタル諸件ヲ本人ニ渡ス可シ但シ本人ノ得可キ權アラサル物件ヲ名代人ノ受取リタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第千九百九十四條 名代人己ニ代テ事ヲ為ス可キ者ヲ任スルノ權ヲ本人ヨリ受ケサル時又ハ本人ヨリ其權ヲ受クルト雖モ本人其者ヲ撰ムトナクレテ名代人ノ撰ミタル者極メテ其職務ニ堪ヘス又ハ家資分散ヲ為シタル時ハ名代人其己ニ代テ事ヲ為シタル者ノ為

メ本人ノ受ケタル損失ノ償ヲ擔當ス可シ
 又同上ノ場合ニ於テハ本人ヨリ名代人其己
 ニ代テ事ヲ為サシムル為メ選任シタル者ニ
 對シ直チニ其償ヲ得シト求ムルヲ得可シ
 第千九百九十五條 一通ノ證書ヲ以テ名代人
 數人ヲ任シタル時ト雖モ其數人ハ互ニ連帶
 スルヲナントス但シ其證書ニ連帶ノ旨ヲ記
 シタル時ハ格別ナリトス
 第千九百九十六條 名代人本人ノ金高ヲ自己
 ノ用ニ供シタル時ハ其時ヨリ以來ノ息銀ヲ

拂フ可シ又本人ニ渡ス可キ金高アリテ之ヲ
 渡ス可キノ求メテ受ケ猶之ヲ渡サ、ル時ハ
 其時ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ

第千九百九十七條 名代人已ト契約ヲ結ハシ
 ト為ス者ニ自己ノ任ヲ受ケタル權利ノ定限
 ヲ明カニ告知セシ上其者名代人ノ權利外ノ
 事ニ付キ契約ヲ結ヒタル時ハ後ニ名代人其
 契約ノ如ク行フヲ得スト雖モ其者名代人
 ヲシテ其責ニ任セシムルヲ得ス但シ名代
 人其責ニ任ス可キヲ別段定メ置タル時ハ

格別ナリトス

○第三章 本人ノ義務

第一千九百九十八條 本人ハ其名代人ニ授ケタル權利ニ因リ名代人ノ他人ト契約シタル義務ヲ自カラ執行ヲ可シ

名代人其本人ヨリ受ケタル權利外ニ於テ為シタル事ニ付テハ本人之ヲ明許シ又ハ黙許シタル時ノ外其事ヲ擔當スルニ及ハス

第一千九百九十九條 名代人本人ヨリ任ヲ受ケタル事務ヲ行フニ付キ為シタル所ノ拂高及

ヒ費用ハ本人ヨリ之ヲ名代人ニ償フ可ク又本人ヨリ名代人ニ謝金ヲ與フ可キノ約束アル時ハ之ヲ與フ可シ

名代人ニ過失アラサル時ハ縱令名代人ノ任ヲ受ケレ事務ノ成就セサル時ト雖モ前ニ記シタル拂高ト費用トヲ本人ヨリ名代人ニ償ハサルヲ得ス又本人ハ其名代人ノ出シタル拂高及ヒ費用ノ更ニ少ナキヲ得可キ旨ヲ口實ト為シ其償還ノ高ヲ減スルヲ得ス

第二千條 又名代人其任セラレタル事務ヲ行

フニ付キ其過失ニ非ヌレテ損失ヲ受ケタル
時ハ本人ヨリ之ヲ償フ可レ

第二千一條 名代人本人ヨリ任ヲ受ケタル事
務ヲ行フニ付キ為シタル拂高ノ息銀ハ其拂
方ヲ為シタルノ證アル日ヨリ以來本人之ヲ
償フ可レ

第二千二條 一箇ノ事務ニ付キ本人數人ニテ
名代人一人ヲ任シタル時ハ其本人數人ニテ
其名代人ニ對シ連帶シテ義務ヲ負フ可レ

○第四章 名代ノ任ノ終ル法方

第二千三條 名代ノ任ハ左ノ諸件ニ因リ終ル
可レ

名代人ヲ退クル事

名代人自カラ其任ヲ退ク事

本人又ハ名代人ノ死去、准死、治産ノ禁、家
資分散

第二千四條 本人ハ己ノ意ニ隨ヒ其名代人ヲ
退クルヲ得可レ但シ私ノ證書ヲ以テ其名
代人ヲ任シ之ヲ名代人ニ渡シ置キタル時ハ
其證書ヲ還サレノ又公正ノ證書ヲ以テ名代

人ヲ任シ其證書ノ正本ヲ名代人ニ渡し置キタル時ハ其正本ヲ還サシメ又其正本ヲ本人ノ方ニ保チ置キタル時ハ其副本ヲ還サシムルヲ得可シ

第二千五條 本人ヨリ名代人ニ其任ニ退クル旨ヲ告知シタルト雖モ他人其旨ヲ知ラズシテ名代人ト契約ヲ結ビタル時ハ本人其契約ノ執行ヲ擔當ス可シ但シ本人ハ此事ニ付キ名代人ニ對シテ訴訟ヲ為スヲ得可シ

第二千六條 從來ノ名代人ニ委任セシ事務ニ

付キ更ニ他ノ名代人ヲ任シタル時ハ從來ノ名代人ニ其旨ヲ告知シタル日ヨリ從來ノ名代人ヲ退ケタルト看做ス可シ

第二千七條 名代人ハ其任ヲ退カント欲スルトヲ本人ニ告知シテ其任ヲ退クヲ得可シ然モ名代人其任ヲ退クニ因リ本人ノ為メニ損失ヲ生スル時ハ名代人其損失ヲ償フ可シ但シ名代人其名代ノ任ヲ繼續シテ行フニ於テハ本人ノ受クル損失ヨリモ更ニ夥多ノ損失ヲ己ニ受ク可キ場合ハ格別ナリトス

第二千八條 若シ名代人本人ノ死去又ハ其他自己ノ任ノ終ル可キ原由ヲ知ラスレテ他人ト契約ヲ為シタル時ハ其契約ノ効アリトス

第二千九條 前條ノ場合ニ於テ他人正實ノ意ヲ以テ其名代人ト結ヒタル契約ハ本人ノ方ニテ之ヲ執行ヲ可シ

第二千十條 名代人ノ死ニシタル時ハ其遺物相續人ヨリ其由ヲ本人ニ告知シ其相續人本人ヨリ其答詞ヲ得ルニ至ル迄ハ本人ノ為メ必要ナル諸事ヲ執行ヲ可シ

○第十四卷 保證(千八百四年第二月十四

日決定同月廿四日布告)

○第一章 保證ノ本義及ヒ其定限

第二千十一條 總テ保證人ハ本人其義務ノ行ハサル時義務ヲ得可キ者ニ對シテ其義務ヲ行フ可シ

第二千十二條 契約ノ義務ノ効ナキ時ハ亦其保證ノ効ナカル可シ

然レ本人ノ幼者タル事等ノ如ク總テ本人ノ一身ニ管シタル原由ニ因リ其契約ノ義務ヲ

取消シ得可キ時ト雖其保證ノ効アリトス
 第二千十三條 保證人ノ擔當ス可キ義務ノ高
 ハ主タル義務ノ高ニ過ク可カラス又保證人
 ハ本人ヨリ更ニ重劇ナル義務ヲ契約ス可カ
 ラス
 保證ハ主タル義務ノ一部ノミニ付キ之ヲ為
 ストヲ得可ク又保證人ハ本人ヨリ更ニ輕キ
 義務ヲ契約スルヲ得可シ
 主タル義務ノ高ニ過キタル保證人ノ契約又
 ハ保證人本人ヨリ更ニ重劇ナル義務ヲ擔當

可キ契約ハ全ク其効ナキモノトス可カラス
 之ヲ其主タル義務ト同一ニ為ス可シ
 第二千十四條 別段本人ヨリノ頼ナクシテ其
 保證人トナルヲ得又ハ本人ノ知ルヲナク
 シテ其保證人トナルヲ得可シ
 又如何ナル人ト雖其主タル義務ノ保證人ト
 ナル可キノミニ非ス亦保證人ノ保證人トナ
 ルヲ得可シ
 第二千十五條 保證ノ事ハ思料ヲ以テ為ス可
 カラス必ス之ヲ契約書ニ記ス可シ但シ其保

證ノ義務ハ其契約書ニ記シタル定限ニ過ク
可カラス

第二千十六條 保證ニ付キ別段定限ヲ立テサ
ル時ハ主タル義務ニ附帶シタル諸件及ヒ義
務ヲ得可キ者先ツ其義務ヲ行フ可キ本人ニ
對シ為シタル訴訟ノ費用並ニ其訴訟ヲ為セ
シ由ヲ保證人ニ告知シタル後ノ訴訟ノ費用
ニ至ル迄皆保證人ノ擔當ス可キ所ナリトス
第二千十七條 保證人ノ義務ハ其遺物相續人
ニ之ヲ傳フ可シ但シ保證人其義務ヲ行ハサ

ルニ因リ禁錮ヲ受ク可キ場合ト雖モ其相續
人ハ禁錮ヲ受クルコトナカル可シ

第二千十八條 保證人ヲ立ツ可キ本人ハ契約
ヲ結ビ得可キノ權利ヲ有シ且其義務ノ保證
ヲ為スニ十分ナル財産ヲ所有スル者ヲ其保
證人ト為ス可シ但シ其保證人トナル可キ者
ノ住所ハ其保證ノ契約ヲ為ス地ノ上等裁判
所ノ管轄内ニアルコトヲ必要トス

第二千十九條 商業ノ事務ニ管シタル時又ハ
義務ノ高極メテ少ナキ時ノ外保證人其義務

ヲ行ヒ得可キ能力ハ其所有スル不動産ヲ以テ之ヲ計ル可レ

又保證人ノ不動産所有ノ權ニ付キ訴訟アル時又ハ不動産遠地ニ在テ義務ヲ得可キ者ヨリ之ヲ得ント求ムルニ差支アル時ハ其保證人ノ義務ヲ行ヒ得可キ能力ヲ計ルニ付キ此等ノ不動産ヲ算入ス可カラス

第二千二十條 若レ義務ヲ得可キ者自己ノ意ニ因リ又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ義務ヲ行フ可キ者ノ立テタル保證人ヲ承諾シ後ニ其保

證人已ノ義務ヲ行フヲ能ハサルニ至リシ時ハ義務ヲ行フ可キ者更ニ他ノ保證人ヲ立ツ可レ

然レ義務ヲ得可キ者ト義務ヲ行フ可キ者トノ契約ニ因リ其義務ヲ得可キ者義務ノ保證人ヲ特ニ撰ミタル時其保證人後ニ其保證ノ義務ヲ行フヲ能ハサルニ至ルヲアルニ於テハ前項ノ例外ナリトス

○第二章 保證ヨリ生スル條件

○第一款 義務ヲ得可キ者ト保證人

トノ間ニ保證ヨリ生スル條件

第二千二十一條 保證人ハ義務ヲ得可キ者ニ其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テシム可キヲ陳述シ其本人猶其義務ヲ行ハサル時ノ外自カラ義務ヲ行フニ及ハス然ル保證人別段其權利ヲ拋棄シタル時又ハ義務ヲ行フ可キ本人ト連帶シテ其義務ヲ行フ可キヲ契約シタル時ハ格別ナリトス但シ其義務ヲ行フ可キ本人ト保證人ト連帶レテ其義務ヲ行フ可キヲ契約

シタル時ハ連帶シタル義務ニ付キ定メタル規則ニ循フ可シ第一千二百條見合

第二千二十二條 義務ヲ得可キ者ヨリ保證人ニ對シ其義務ヲ得ント求メ其保證人其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テシム可キヲ陳述シタル時ノ外義務ヲ得可キ者必スシモ其義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充テ用ントスルニ及ハス

第二千二十三條 保證人義務ヲ得可キ者ニ其

義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テ用フ可キヲ求ムルニハ其義務ヲ得可キ者ニ其本人ノ財産ヲ指示シ且其財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充テシムル手續ヲ為スニ十分ナル費用ノ金高ヲ義務ヲ得可キ者ニ預メ渡シ置ク可シ
 保證人ハ其本人ノ義務ヲ盡クス可キ地ノ上等裁判所ノ管轄外ニアル財産ヲ指示ス可カラス又其裁判所ノ管轄内ニアル本人ノ財産ト雖モ他人ヨリ之ヲ得ルノ權アルヲ訴出

シタル財産又ハイボテクト為シタル財産ヲ指示ス可カラス

第二千二十四條 保證人前條ノ規則ニ循ヒ其指示スヲ得可キ本人ノ財産ヲ指示シ且其財産ヲ以テ義務ヲ得ルニ充テシムル手續ヲ為スニ足ル可キ費用ノ金高ヲ義務ヲ得可キ者ニ渡シタル時其義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充ツ可キ手續ヲ為スニ怠タリ其本人終ニ其義務ヲ行フヲ能ハサルニ至ル事アルニ於テハ

其保證人義務ヲ得可キ者ニ指示シタル本人ノ財産ノ高ニ至ル迄其保證ノ義務ヲ免カル可シ

第二千二十五條 一箇ノ義務ニ付キ其義務ヲ行フ可キ本人ノ為メ保證人數人アル時ハ其各保證人其義務ノ總高ヲ擔當ス可シ
第二千二十六條 然ルニ其各保證人ハ義務ヲ得可キ者ノ其義務ヲ各自ニ分派ス可キ求メラ為スヲ得可シ但シ保證人其義務ヲ分チ行フ可キヲ求ムルノ權利ヲ拋棄シタル時ハ

格別ナリトス

保證人中ノ一人裁判所ヨリ其義務ヲ分チ行フ可キノ言渡ヲ得タル時ニ當リ其保證人中ニ其義務ヲ行フヲ能ハサル者アルニ於テハ其義務ヲ分チ行フ可キノ言渡ヲ得タル保證人他ノ保證人ト共ニ其義務ヲ行フヲ能ハサル者ノ部分ヲ擔當ス可シ然レ既ニ其義務ノ分派ヲ為シタル後ハ其保證人中ニ其義務ヲ行フヲ能ハサルニ至リシ者アリト雖モ他ノ保證人其者ノ部分ヲ擔當スルニ及ハス

第二千二十七條 義務ヲ得可キ者自己ノ意ヲ以テ其得可キ義務ヲ分ツトテ承諾シタル時ハ縱令其義務ヲ得可キ者之ヲ分ツトテ承諾スル前ニ其義務ヲ行フト能ハサル保證人アル時ト雖モ其義務ヲ分チタルトテ取消スヲ得ス

○第二款 本人ト保證人トノ間ニ保證ヨリ生スル條件

第二千二十八條 義務ヲ行フ可キ本人其保證人アルトテ知ルト知ラサルトテ問ハス保證

人其本人ノ為ノ義務ヲ行フトタル時ハ其本人ニ對シテ訴ヲ為スノ權アリ
 其訴訟ハ母銀及ヒ息銀ト費用トノ償還ヲ得シカ為メ之ヲ為ス可シ然モ其保證人ハ義務ヲ得可キ者ヨリ訴訟ヲ受ケタル旨ヲ其本人ニ告知スルトナクシテ出シタル費用ノ償還ヲ其本人ヨリ得ント訴フ可カラズ
 又保證人損失ヲ受ケタル時ハ其償ヲ求ムルノ訴訟ヲ為ストテ得可シ
 第二千二十九條 義務ヲ行フ可キ本人ノ為メ

義務ヲ行フタル保證人ハ義務ヲ得可キ者ヨリ其本人ニ對シテ行フ可キ權利ニ代ル可シ

第二千三十條 一箇ノ義務ニ付キ連帶シテ之

ヲ行フ可キ本人數人アリテ其保證人一人ナシ時保證人其義務ヲ行フタルニ於テハ其義務ヲ行フ可キ各本人ニ對シ其既ニ行フタル義務ノ總高ノ償還ヲ得ント訴フルコトヲ得可シ

第二千三十一條 保證人義務ヲ行フ可キ本人

ニ告知セスシテ其本人ノ為メ義務ヲ行ヒ其

本人後ニ重複シテ其義務ヲ行フタル時ハ其保證人ヨリ本人ニ對シテ償還ノ訴訟ヲ為スコトヲ得ス唯其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ノ訴訟ヲ為スコトヲ得可シ

又保證人義務ヲ得可キ者ヨリ訴訟ヲ受クルコトナク且義務ヲ行フ可キ本人ニ告知スルコトナクシテ其義務ヲ行フタル時ニ當リ其本人己ノ義務ノ既ニ消散シタル旨ヲ證シ得可キ事アルニ於テハ其保證人本人ニ對シ償還ヲ求ムルノ訴訟ヲ為スコカラス唯義務ヲ得タ

ル者ニ對シ取戻ノ訴訟ヲ為スコトヲ得可シ
 第二十三十二條 保證人ハ其本人ノ為メ義務
 ヲ行ハサル前ト雖モ左ノ場合ニ於テハ償還
 又ハ釋放ヲ得可キ為メ本人ニ對シテ訴訟ヲ
 為スコトヲ得可シ

第一 保證人義務ヲ得可キ者ヨリ義務
 ヲ行フ可キノ訴ヲ受ケタル時

第二 義務ヲ行フ可キ本人家資分散ヲ
 為シ又ハ産業ノ衰敗シタル時

第三 義務ヲ行フ可キ本人定期ノ時間

ニ其保證人ニ保證ノ義務ヲ釋放ス可
 キノ契約ヲ為シ其期限ニ至リシ時
 第四 義務ノ契約ヲ為シタル定期ノ終
 ルニ因リ其義務ヲ行フ可キニ至リシ
 時
 第五 義務ヲ行フ可キ期限ヲ契約セシ
 ル時ハ其義務ノ生シタルヨリ十年ニ
 至リシ時但シ後見ノ職務ノ如ク定マ
 リシ期限内ニ其義務ノ消散スルコトヲ
 得可キ本義アル時ハ格別ナリトス

○第三款 保證人數人ノ間ニ保證ヨ
リ生スル條件

第二千三十三條 一箇ノ義務ニ付キ之ヲ行フ
可キ本人一人ニレテ其保證人數人アル時ハ
其本人ノ為ノニ義務ヲ行フタル保證人他ノ
保證人ニ對シ其各自ノ部分ノ償還ヲ得ント
スル訴訟ヲ為スヲ得可シ然レ其訴訟ハ前
條ニ記シタル場合中ノ一ニ於テ其義務ヲ行
フタル時ノ外之ヲ為ス可カラス

○第三章 保證人ノ義務ノ消散スル事

第二千三十四條 保證ノ義務ハ其他ノ義務ト
同一ノ原由ニ因リ消散ス可シ

第二千三十五條 義務ヲ行フ可キ本人其保證
人ノ遺物相續人トナリ又ハ保證人其本人ノ
遺物相續人トナリテ其雙方ノ身分相渾同ス
ル時ト雖モ義務ヲ得可キ者ハ保證人ヲ更ニ
保證スル者ニ對シ訴訟ヲ為スノ權ヲ失フト
ナカル可シ

第二千三十六條 義務ヲ行フ可キ本人其義務
ノ本義ニ因リ之ヲ行フヲ拒ム可キノ權ヲ

ル時ハ其保證人モ亦其權ヲ以テ義務ヲ得可
キ者ノ求メテ拒ムコトヲ得可レ
然レ義務ヲ行フ可キ本人ノ一身ノミニ其抵
拒ノ權アル時ハ其保證人其權ヲ以テ義務ヲ
得可キ者ノ求メテ拒ム可カラス

第二千三十七條 義務ヲ得可キ者ノ處置ニ因
リ保證人其者ノ權利、イボテノ權、ブリス
レ、レノ權ニ代ルコトヲ得サルニ至リシ時ハ
保證人其義務ノ釋放ヲ受ク可レ

第二千三十八條 義務ヲ得可キ者其義務ヲ得
ルニ充ル為メ不動産又ハ動産ヲ自己ノ意ヲ
以テ受取リシ時ハ其者後ニ正當ノ所有者ヨ
リ訴訟ヲ受クテ其動産又ハ不動産ヲ奪ハル
コトアリト雖レ保證人ハ其義務ノ釋放ヲ得
可レ

第二千三十九條 義務ヲ得可キ者ヨリ義務ヲ
行フ可キ本人ニ其義務ヲ行フ可キ期限ノ猶
豫ヲ許シタルノミニテハ保證人其義務ノ釋
放ヲ得可カラス但シ其保證人ハ本人ヲシテ
其義務ヲ行ハシム可キ為メノ訴ヲ為スコトヲ

得可

○第四章 法律上ヨリ生スル保證及ヒ

裁判言渡ヨリ生スル保證

第二千四十條 法律上又ハ裁判言渡ニ因リ保
 證人ヲ立ツ可キトアル時ハ其保證人トナル
 者第二千十八條及ヒ第二千十九條ニ記シタ
 ル條件ノ具備レタルトヲ必要トス
 又裁判言渡ニ因リ保證人ヲ立テタル時其保
 證人已ノ義務ヲ行ハサルニ於テハ之ヲ禁錮
 スルトヲ得可シ

第二千四十一條 保證人ヲ立テント欲レ之ヲ
 得サル者ハ其保證人ニ代ヘテ至當ノ動産ヲ
 質ト為ストヲ得可シ

第二千四十二條 裁判言渡ニ因リ保證人ヲ立
 テタル時ハ其保證人自カラ其義務ヲ行フ前
 ニ先ツ義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其
 義務ヲ得ルニ充テレシム可キトヲ義務ヲ得可
 キ者ニ求ムルヲ得ス

第二千四十三條 裁判言渡ニ因リ立テタル保
 證人ヲ更ニ保證スル者ハ自カラ義務ヲ行フ

前ニ先ツ義務ヲ行フ可キ本人及ヒ其保證人ノ財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ充テシム可キ
トテ義務ヲ得可キ者ニ求ムルヲ得ス

○第十五卷 和解(千八百四年第三月廿日)

決定同月三十日布告

第二千四十四條 和解トハ雙方ノ間ニ既ニ生
シタル争ヲ了シ又ハ生セントスル争ヲ預メ
防ク契約ヲ云フ

此契約ハ必ス之ヲ書面ニ記ス可シ

第二千四十五條 和解ヲ為サントスルニハ其
和解ニ管シタル物件ヲ己ノ隨意ニ取扱フノ
權ヲ有スルヲ必要トス

後見人ハ第四百六十七條ノ規則ニ循フニ非

サレハ知者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ為
 ノニ和解ヲ為スヲ得ス又後見人ハ第四百
 七十二條ノ規則ニ循ハサレハ後見ノ算計ニ
 付キ知者ノ丁年ニ至リシ者ト和解ヲ為ス
 ヲ得ス
 「コンミユーン」及ヒ公ケノ建造物ノ支配人ハ其
 「コムニユーン」及ヒ建造物ニ管シタルトニ付
 キ別段皇帝ヨリノ允許ヲ得タルトニ非サレ
 ハ和解ヲ為スヲ得ス
 第二千四十六條 罪犯ヨリ生シタル損害ノ償

ヲ求ムル事ニ付テハ和解ヲ為スヲ得可シ
 此事ニ付和解ヲ為スト雖モ「ミニステール」
 ブリツク」ヨリ其犯人ノ罪ヲ訴フルノ妨トナ
 ルトナカル可シ
 第二千四十七條 和解ノ契約ヲ為シタル雙方
 ノ中其契約ノ如ク行ハサル者アル時ハ其者
 ヲシテ其償ヲ出サシム可キノ契約ヲ和解ノ
 契約ニ附加スルヲ得可シ
 第二千四十八條 和解ノ契約ハ其目的ト為ス
 所ノ事ニ限ル可シ故ニ和解ノ契約ヲ以テ人

ヨリ物ヲ得可キノ權及ヒ人ニ對シ訴訟ヲ為ス可キノ權ヲ拋棄シタル時ハ其和解ヲ為スノ原由タル争ニ管シタル事ノミニ付キ此等ノ權ヲ拋棄シタルト為ス可シ

第二千四十九條 和解ノ契約ハ其雙方ノ者ノ詳悉又ハ泛博ニ其意ヲ表シタルト契約書ニ記シタル所ヨリ思料シテ了知シ得可キトヲ問ハス其契約ニ包含シタル所ノ争ノミヲ了ス可シ

第二千五十條 自己ノ有スル所ノ權ニ付キ和

解ヲ為シタル者後ニ同一ノ權ヲ他人ヨリ得タル時ハ和解ノ契約ノ為メ後ニ得タル權ヲ執行ツノ妨ヲ受クルトナカル可シ

第二千五十一條 同一ノ事務ニ管シタル數人中ノ一人和解ヲ為シタルト雖モ其他ノ者ハ其和解ノ契約ヲ循守スルニ及ハス又其和解ノ契約アルトヲ申述ヘテ其義務ヲ免カレントスルトヲ得ス

第二千五十二條 和解ノ契約ハ之ヲ結ビタル者ノ間ニ於テハ更ニ上等裁判所ニ控訴スル

ト能ハサル裁判言渡ト同一ノカアリトス
和解ノ契約ハ權利ノ錯誤又ハ損害アルヲ以
テ之ヲ取消スルヲ得ス

第二千五十三條 然ル人ヲ錯誤シタル時又ハ
争ノ主意ヲ錯誤レタル時ハ其和解ノ契約ヲ
取消スルヲ得可シ

又詐偽又ハ暴行アル時モ亦其契約ヲ取消ス
ルヲ得可シ

第二千五十四條 効ナキ證書ノ如ク執行フニ
付キ和解ノ契約ヲ為レタル時ハ後ニ其契約

ヲ取消サント訴フルヲ得可シ但レ雙方ノ
者其證書ノ効ノ有無ニ付キ別段和解ヲ為シ
タル時ハ格別ナリトス

第二千五十五條 證書ニ付キ和解ヲ為シタル
後ニ其證書ノ贋造タルヲ分明ナルニ至リレ
時ハ其和解ノ効ナカル可シ

第二千五十六條 既ニ訴訟ノ確定ノ裁判アリ
テ之ヲ控訴スルヲ能ハサルニ至ルニ後雙方
ノ者又ハ一方ノ者其事ヲ知ラスレテ其訴訟
ノ事ニ付キ和解ノ契約ヲ為レタル時ハ其契

約ノ効ナカル可レ
 雙方又ハ一方ノ者ノ知ラサル確定ノ裁判言
 渡レアリト雖凡其裁判言渡ヲ更ニ上等裁判
 所ニ控訴スルヲ得可キニ於テハ其和解ノ
 契約ノ効アリトス

第二千五十七條 何事ニ限ラス雙方ノ者相與
 ニ為スヲアル可キ諸事ニ付キ和解ノ契約ヲ
 為シタル時ハ其契約ヲ為シタル時ニ當リ知
 ルヲナキ證書ヲ後ニ見出シタルト雖凡其和
 解ノ契約ヲ取消スノ原由ト為ス可カラス但

レ一方ノ者ノ所為ニ因リ故サラニ其證書ヲ
 匿レ置キタル時ハ格別ナリトス
 然凡一箇ノ事ニ付キ和解ノ契約ヲ為シタル
 後新タニ證書ヲ見出レ其證書ニ因リ一方ノ
 者其和解ノ目的タル事ニ管ス可キ權ナキヲ
 分明トナリレ時ハ其和解ノ契約ヲ取消ス可
 レ
 第二千五十八條 和解ノ契約ニ算計ノ錯誤ア
 ル時ハ之ヲ改ム可レ

第十六卷

禁錮

民法ノ事ニ付千八百四

年第二月十三日決定同月廿三日布告
千八百六十七年第七月廿二日廢ス

第二千五十九條

「ステリヲナシ」ノ答アル時ハ

民法ニ管スル事ニ付キ禁錮ヲ受ク可シ

左ノ場合ニ於テハ「ステリヲナシ」ノ答アリト
ス

己ノ所有ニ非サルヲ知リタル不動産
ヲ賣拂ヒ又ハ「イポテーク」ト為レタル時
「イポテーク」ト為レタル不動産ヲ「イポテ

一、ト為サルモノナリト述ヘタル時又ハ其不動産ヲ「イホテ」ト為シタル高ク實ヨリ少ナク述ヘタル時

第二千六十條 又左ノ場合ニ於テハ禁錮ヲ受ク可シ

第一 已ムヲ得サル附託ヲ受ケ其物ヲ還サ、ル時

第二 不動産正當ノ所有者他人ノ暴行ニ因リ之ヲ奪ハレタルニ付キ之ヲ取戻サント裁判所ニ訴出シ其暴行ヲ為

シタル者裁判所ヨリ之ヲ正當ノ所有者ニ還ス可キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ還サ、ル時又ハ暴行ヲ以テ不動産ヲ所有ト為シタル時間ニ其得タル所ノ利益ヲ其所有者ニ還ス可キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ還サ、ル時又ハ其所有者ノ受ケタル損失ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ケ猶其償ヲ為サ、ル時

第三 金高ノ附託ヲ受ク可キ職務アル官吏其附託ヲ受ケタル金高ヲ還ス可

クシテ猶之ヲ還サ、ル時

第四 雙方相争ノ物ノ附託ヲ受ク可キ

者、コミセイル時古ノ官名ニシテ當及ヒ

其他物件ヲ管守ス可キ者其附託ヲ受

ケタル物件ヲ渡ス可クシテ猶之ヲ渡

サ、ル時

第五 裁判所ヨリノ言渡ニ因リ立テタ

ル保證人及ヒ禁錮ヲ受ク可キ者ノ保

證人其保證ノ義務ヲ行ハサル時但シ

禁錮ヲ受ク可キ者ノ保證人亦自カラ

禁錮ヲ受ク可キヲ契約ヲ以テ承諾
シタル時ニ限ル可シ

第六 官吏其附託ヲ受ケタル證書ノ正

本ヲ出ス可キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ出

サ、ル時

第七 「ノテ」ル代書師「ウレエ」其職務

ニ付、原告又ハ被告ヨリ附託ヲ受ケシ

證書ヲ還ス可キニ之ヲ還サ、ル時又

ハ此等ノ者原告又ハ被告ノ為ニ受取

レ金高ヲ渡ス可キニ之ヲ渡サ、ル時

第二千六十一條 正當ノ所有者ノ不動産ヲ占
 有セシ者既ニ控訴ス可カラサル確定ノ裁判
 言渡ヲ受ケ其不動産ヲ正當ノ所有者ニ渡ス
 可キニ猶之ヲ渡サ、ル時ハ其言渡書ヲ其者
 又ハ其住所ニ送達シタルヨリ十五日ノ後更
 ニ第二次ノ言渡ヲ為シテ之ヲ禁錮ス可シ
 又其不動産ト之ヲ占有セシ者ノ住所トノ間
 ニ五^リミリヤメートル以上ノ距離アル時ハ五
 ミリヤメートルトシ毎ニ其十五日ノ期限ニ一日
 ノ猶豫ヲ増ス可シ

第二千六十二條 土地ヲ賃借スル者其借受ケ
 ノ證書ニ其借賃ヲ拂ハサルニ於テハ禁錮ヲ
 受ク可キトテ特ニ約シタル時ノ外土地ノ借
 賃ヲ拂ハサルトノ為メ禁錮ヲ言渡ス可カラ
 ス○然ル土地ヲ賃借スル者又ハ土地ノ入額
 ヲ其所有者ト分ツ可キ約束ニテ之ヲ賃借ス
 ル者嘗テ附託ヲ受ケシ獸類、種子、農業ノ器具
 ヲ還サ、ル時ハ其者ヲ禁錮スルトテ得可シ
 但シ其者自己ノ過失ニ非ラスシテ此等ノ物
 件ヲ失フタルノ證ヲ立ル時ハ格別ナリトス

第二千六十三條 前數條ニ定メタル場合ト後日別段ノ法律ヲ以テ特ニ定ム可キ場合トノ外ハ裁判役禁錮ヲ言渡ス可カラス又「ノテ」及ヒ裁判所ノ書記官ハ禁錮ノ事ヲ契約スル證書ヲ記ス可カラス又各佛蘭西人ハ縱令外國ニ於テ禁錮ノ事ヲ載セタル證書ヲ記シタルト雖モ其証書ヲ承諾ス可カラス若シ此規則ニ背ク者ハ其言渡書又ハ證書ヲ取消シテ其諸般ノ費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ケ且之カ為メ損害ヲ受クル者ニ其償ヲ為ス可キ

ノ言渡ヲ受ク可シ

第二千六十四條 前數條ニ記レタル場合ト雖

モ幼者ニ對シテ禁錮ヲ言渡ス可カラス

第二千六十五條 三百「フラン」以下、金高ニ付

テハ禁錮ヲ言渡ス可カラス

第二千六十六條 七十歳以上ノ者及ヒ婦女ニ

付テハ「ステリ」ノ答アル時ノ外禁錮ヲ言渡ス可カラス

七十歳以上ノ者ノ免許ヲ受ケントスルニハ其齡ヲ生年ヨリ算ヘ第七十年ニ掛リシテ

以テ十分ナリトス
 婚姻ヲ結ヒタル婦ハ其夫ト財産ヲ分チ又ハ
 自由ニ支配スルヲ得可キ自己ノ財産ヲ有
 レ其自己ノ財産ニ付キ人ニ對シテ義務ヲ負
 フタル時ノ外夫婦タル時間「ステリヲナ」ノ
 答ニ付キ禁錮ヲ言渡ス可カラス
 夫ト財産ヲ共通シ其夫ト連帶シテ義務ヲ負
 フタル婦ハ其義務ノ契約ニ付キ「ステリヲナ
 」ノ答アル者ト看做ス可カラス
 第二千六十七條 法律上ニテ人ヲ禁錮スルコ

ヲ得可キ場合ト雖モ裁判所ノ言渡アルニ非
 サレハ之ヲ禁錮ス可カラス

第二千六十八條 禁錮ヲ言渡シタル假リノ裁
 判言渡ニ服セスレテ更ニ上等裁判所ニ控訴
 スルト雖モ其假リノ言渡ヲ得タル者保證人
 ヲ立テ其言渡ノ如ク執行ハントスル時ハ其
 控訴ノ為メ禁錮ヲ停止ス可カラス

第二千六十九條 禁錮ノ言渡ノ如ク執行フト
 雖モ禁錮ヲ受ケン者ノ財産ヲ抵償トシテ差
 押アルトノ差支トナル可カラス又其差押ヲ

停止ス可カラス

第二千七十條 此卷ニ記スル所ノ禁錮ノ法律ト商業ノ事ニ付キ禁錮ヲ為スノ法律、輕罪犯ヲ罰スルニ付テノ法律、官金ヲ支配スルニ付テノ法律ト相觸ル、トナカル可シ

○第十七卷 質物ノ事(千八百四年第三月

十六日決定同月廿六日布告)

第二千七十一條 質トハ負債者其債ノ償ヲ可

キノ保證トシテ其債主ニ物件ヲ渡ス契約ヲ云フ

第二千七十二條 動産ノ質ヲ名ケテ「ガージェット

云フ 不動産ノ質ヲ名ケテ「アンチクレイブ」ト云フ

○第一章 動産ノ質

第二千七十三條 動産ノ質ヲ得タル債主ハ他

ノ債主ヨリ先ニ其質トシテ得タル動産ヲ以テ貸高ノ償ヲ得可キアレザリシノ權ヲ有ス可レ

第二千七十四條 債主其特權ヲ得ントスルニハ質物ノ種類及ヒ性質ト貸與ヘタル金高トヲ記シタル公正ノ證書又ハ私ノ證書又ハ質物ノ性質及ヒ度量ノ書付ハ添フタル公正ノ證書又ハ私ノ証書ヲ法律ニ循ヒ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ必要トス
然レ百五十「フラン」以下ノ價アル質物ニ付

ナハ證書ヲ記シ且之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ必要トセス

第二千七十五條 甲ヨリ乙ニ金高ヲ貸シタル證書ヲ甲ノ債主甲ニ貸シタル金高ノ質物トシテ受取リ其質物ヲ以テ他ノ債主ヨリ先ニ其貸高ノ償ヲ受ク可キ特權ヲ得ントスルニハ公正ノ證書又ハ私ノ証書ヲ記シテ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記シ且其質トシテ受取リシ旨ヲ乙ニ告知スルヲ必要ナリトス

第二千七十六條 何レノ場合ニ於テモ債主質

物ヲ受取り置キ又ハ債主ト負債者ト雙方ニテ擇ミタル者其質物ヲ受取り置キタルニ非サルハ債主其質物ニ付キ「アリ」ノ權ヲ得可カラス

第二千七十七條 甲ノ負債ノ保證ノ為メ乙ヨリ自己ノ動産ヲ質物トシテ甲ノ債主ニ與ルヲ得可シ

第二千七十八條 債主ハ負債者其債ヲ拂ハサルト雖モ直ニ其質物ヲ自己ノ隨意ニ為スヲ得ス但シ債主ハ評價人ノ評價ニ從ヒ其貸

金ノ高ニ充ル迄其質物ヲ償トシテ己ノ所有ト為シ又ハ之ヲ糶賣ニテ賣拂フ可キノ言渡ヲ得ント裁判所ニ訴出スヲ得可シ

前項ニ記シタル法式ヲ行ハスシテ債主其質物ヲ自己ノ所有ト為シ又ハ隨意ニ取扱フ可キノ契約ハ其効ナカル可シ

第二千七十九條 負債者其債ヲ拂ハサルニ因リ債主ニ質トシテ渡シタル物件所有ノ權ヲ失フニ至ル迄ハ其物件ノ所有者ニシテ債主ハ唯其「アリ」ノ權ヲ保有スル為メ其

質物ノ附託ヲ受ケシ者ナリトス

第二千八十條

債主ハ此篇第三卷

契約及ヒ總

義務ニ定メタル規則ニ循ヒ己ノ過失ニ因

リ質物ヲ滅盡破壊シタルノ責ニ任ス可シ

又負債者ハ債主其質物ヲ保全スルニ付キ為

レタル所ノ必要ニシテ且資益アル費用ヲ債

主ニ算計ス可シ

第二千八十一條

甲ノ乙ニ貸シタル金高ノ證

書ヲ自己ノ負債ノ質トシテ丙ニ與ヘ其證書

ニ記シタル金高ニ付キ息銀ヲ生スル時ハ丙

其息銀ヲ以テ己ノ得可キ息銀ノ償ニ充テ用
フ可シ

若シ又甲ヨリ乙ニ貸シタル金高ニ付キ息銀

ヲ生スルト雖丙ヨリ甲ニ貸シタル金高ニ

付キ息銀ヲ生スルトナキ時ハ丙其質物トシ

テ得タル甲ノ證書ニ因リ得ル所ノ息銀ヲ以

テ己ノ得可キ母銀ノ償ニ充テ用フ可シ

第二千八十二條

負債者ハ債主ノ其質物ヲ破

壞シタル時ノ外其負債ノ母銀及ヒ息銀並ニ

諸費用ノ總高ヲ拂ヒシ後ニ非サレハ其質物

ヲ取戻ス可キノ訴ヲ為ス可カラス
 負債者其債ノ質トシテ債主ニ物件ヲ與ヘタ
 ル後其債主ニ對シ更ニ再ヒ債ヲ負フコトアリ
 テ未タ舊債ヲ償ハサル内ニ新債ヲ償フ可キ
 期限ニ至リレ時ハ債主其二箇ノ負債ノ拂還
 ヲ得ル前ニ質物ヲ還與スルニ及ハス
 但レ新債ノ償ノ為メ舊債ニ付テノ質物ヲ用
 フ可キ契約アラサル時ト雖モ亦同一ナリ
 第二千八十三條 負債者ノ遺物相續人等ノ間
 ニ其債ヲ分ツコトヲ得可ク又債主ノ遺物相續

人等ノ間ニ其質高ヲ分ツコトヲ得可キ時ト雖
 モ質物ハ之ヲ分ツコトヲ得ス第七條見合
 故ニ負債者ノ遺物相續人中ノ一人其負債中
 ニテ己ノ擔當ス可キ部分ヲ拂フタルト雖モ
 其負債ノ總高ヲ拂ハサル内ハ其質物ノ中ニ
 テ己ノ得可キ部分ヲ取戻サント訴フ可カラ
 ス
 又債主ノ遺物相續人中ノ一人其質高中ニテ
 己ノ得可キ部分ヲ受取リタルト雖モ其質物
 ヲ還與シテ未タ拂方ヲ得サル他ノ相續人ノ

損害ヲ為ス可カラス

第二千八十四條 前數條ノ規則ハ商業ノ事務
又ハ官許ナル典舖ニ通レテ用フ可カラス但
レ此等ノ事ニ付テハ別段設ケタル法則ニ循
フ可レ

○第二章 不動産ノ質

第二千八十五條 不動産ノ質ハ必ス書面ヲ以
テ之ヲ為ス可レ

債主ハ不動産ノ質ヲ得タルニ因リ其不動産
ヨリ生スル所ノ入額ヲ收メ其貸高ニ付キ息

銀ノ得可キ權アル時ハ毎歲其入額ヲ先ツ息
銀ノ償ニ充テ用ヒ次ニ母銀ノ償ニ充テ用フ
ルヲ得可レ

第二千八十六條 別段ノ契約アラサル時ハ債
主其質トレテ得タル不動産ニ付キ出ス可キ
税銀及ヒ毎歲ノ費用ヲ拂フ可レ
又其債主ハ其不動産ノ為メ必要ニレテ且資
益アル補理及ヒ修繕ヲ為ス可ク若レ之ヲ為
サ、ルニ因リ負債者ノ為メ損害ヲ生シタル
時ハ之ヲ償フ可レ但レ債主ノ此等ノ事ヲ為

ス費用ハ其不動産ヨリ生スル入額中ヨリ取
リ用フ可シ

第二千八十七條 負債者ハ其負債ノ總高ヲ拂
ヒシ後ニ非サレハ其質ト為シタル不動産ヲ
取戻スコトヲ得ス

債主ハ前條ニ記シタル義務ヲ行フコトヲ欲セ
サル時稅銀費用等ヲ負債者ヲレテ強テ其不
動産ヲ取戻サシムルコトヲ得可シ但シ此事ヲ
為ス可キ權ヲ特ニ拋棄シタル時ハ格別ナリ
トス

第二千八十八條 債主ハ預定シタル期限ニ至

リ貸高ノ拂還ヲ得サルノミニテ直チニ其不
動産ノ所有者トナルコトヲ得ス縱令之ニ及レ
タル契約アリト雖モ其効ナカル可シ

然モ債主ハ負債者ノ不動産所有ノ權ヲ奪フ
可キコトヲ裁判所ニ訴フルヲ得可シ

第二千八十九條 債主ト負債者トノ雙方ニテ
其不動産ヨリ生スル所ノ入額ト貸高ノ息銀
トヲ全ク相殺シ又ハ其一部分ヲ相殺ス可キ
コトヲ契約シタル時ハ其契約ヲ總テ法律上ニ

テ別段禁セサル他ノ契約ノ如ク執行スラ
得可レ

第二千九十条 第二千七十七條及ヒ第二千八
十三條ノ規則ハ不動産ノ質ニモ亦通シテ用
フ可レ

第二千九十一条 此章ニ記スル所ノ規則ヲ以
テ質ト為シタル不動産ニ付キ他人ノ有スル
特權イボテ又ハクハガソク害スルヲナカル
可シ
不動産ヲ質トシテ得タル債主其不動産ニ付

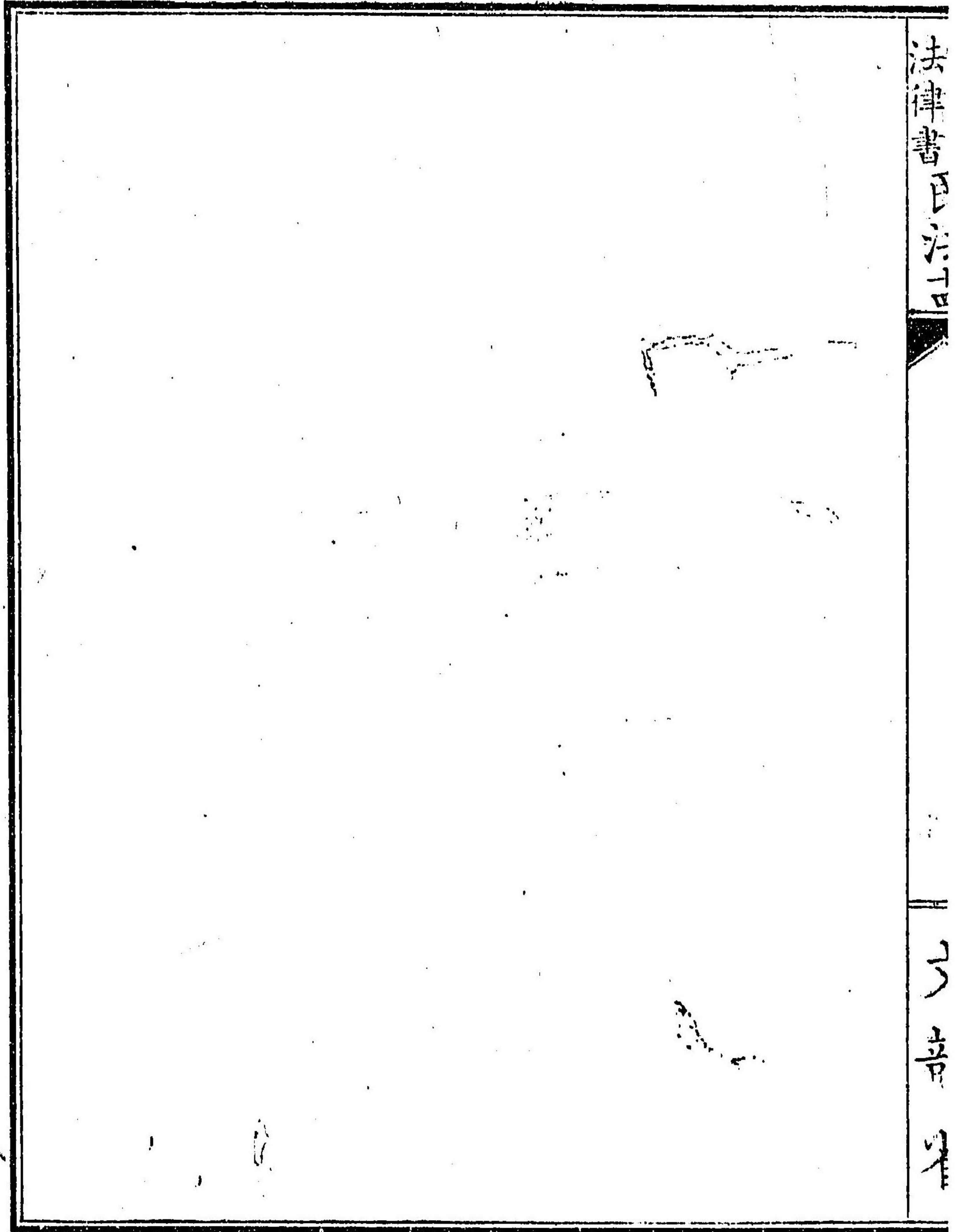
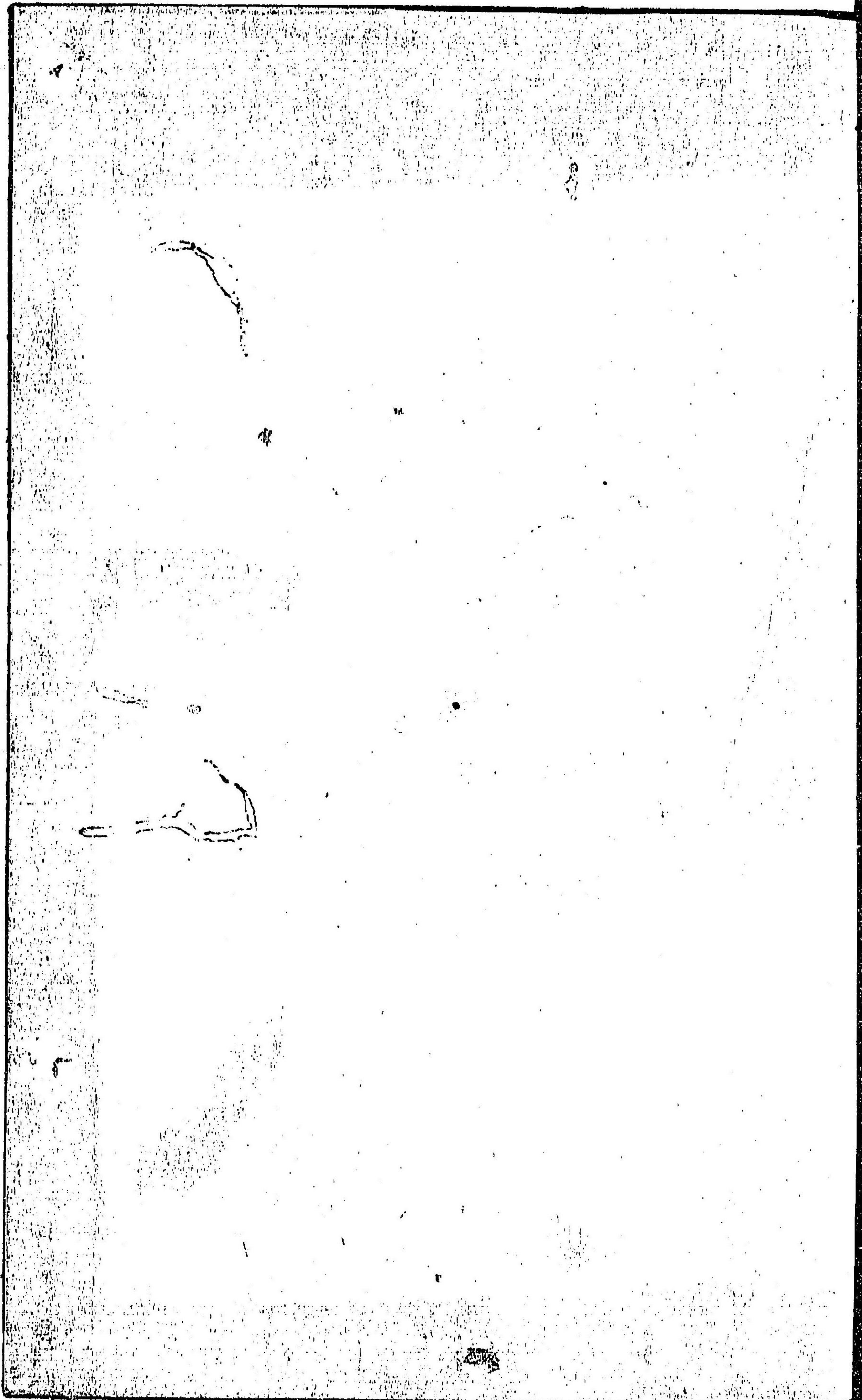
キ亦アリイボテノ權又ハクノ權
ヲ得タル時ハ他ノ債主ニ等シク相當ノ順序
ヲ以テ此等ノ權ヲ行フ可シ

辻士革筆受

佛蘭西民法十四終

佛蘭西民法

辛 七 頁



法律書目録

了
音
律

